

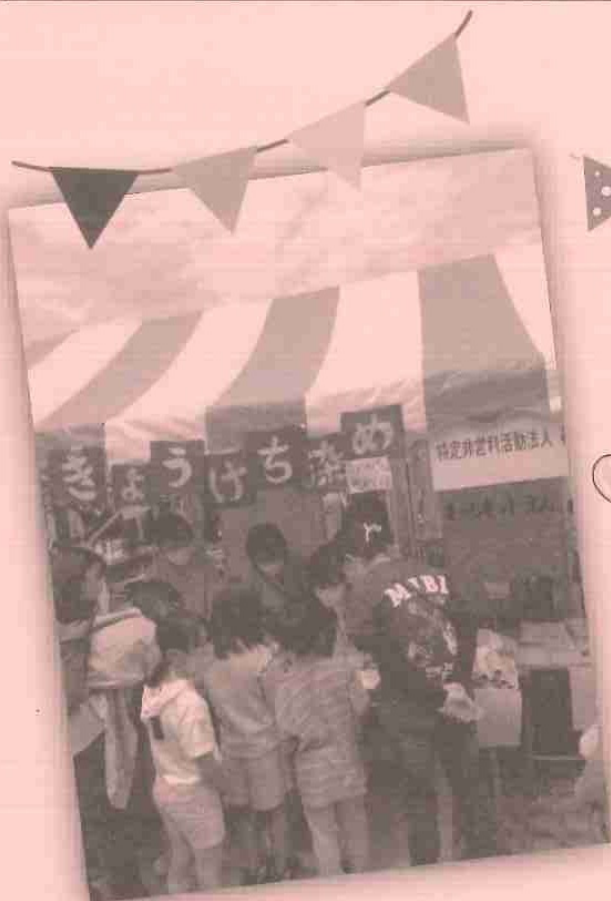


# 通信

電話048-480-4150

2023年度 夏号

## 5月28日(日) 福祉フェスティバル



4年ぶりに開催された『新座市福祉フェスティバル』。えんは飲食が伴う「豆腐白玉ぜんざい」は今回見送り、定番の「きょうけち染め」と認知症相談での参加となりました。開催場所は福祉の里から市役所に変更りましたが、以前と同じく速攻じゃがバターをGETし、お気に入りの猫のクリップを購入、その他の美味しいものもお腹に入れ、催し物をみながら、久しぶりに会う福祉関係の方々、退職したスタッフ、利用者さん、そのご家族、たくさんの懐かしい方たちとお会いすることができました。たまたまこの日に誕生日だったこともあり、似顔絵を描いてもらったり、写真を撮ってもらったりも…(ちゃんと店番もしていましたよー!)。子供達が、きょうけち染めでこの世に一つだけの作品を作り上げていく様子を見ながら、このように顔の見える集いがあるということは必要だなあ…としみじみ感じた一日となりました。

(ケアサポートえん/西本由美子)





5類に変更した新型コロナウイルスですが、またもや感染者増で第9波に突入したとか。えんの周辺でもポツポツと感染者が出ている上に、コロナ禍中にはなりを潜めていたインフルエンザなど他の感染症も、「待ってました！」とばかりに流行り、まだまだ安心できません。それでも、途絶えていた地域のお祭りや、えんの各事業所で催しものが再開されるなど、少しずつ人と人との交流が増えてきたのはうれしいことです。

そんな中、酷暑の夏が始まりました。特に認知症がある方は暑さへの対応ができず、エアコンを適切に使えない、水分補給が足りないなどは、一步間違えれば命にかかわります。「わたし、暑さに強いから」と言われる方が熱中症で救急搬送されることもよくあります。

日盛りに利用者宅を次々訪問するヘルパーも、この時期特に過酷です。先日、訪問ヘルパーがエアコンを使わない利用者さん宅で熱中症を起こし、責任者が駆け付ける事件がありました。暑さ対策を怠らずこの夏を乗り切りましょう。

さて、第21回定例総会のご報告です。久しぶりに約80人の参加者があり、コロナ禍前にはほぼ戻りました。回を重ねても総会は大仕事、終了するとホッとするやら、あれでよかったのかと反省するやらの繰り返しです。

### 2022年度事業報告

- \*2022年度のトピックスは、第7波以後各事業所でクラスター感染が起きたことでした。えん通信74号で報告したように、グループホームえんのクラスター感染は入居者さんの一人が亡くなる事態になり、えん 20 年の中で最もつらい出来事でした。グループホームだけでなく、感染の波が重なるたびに増加する在宅療養に対応した訪問介護ケアサポートえんや、クラスター感染時にも何とか閉鎖せずに続けた多機能ホームまどかの奮闘も報告されました。
- \*相談支援と基幹相談支援センターは、2021年度末ギリギリに新築事務所に引っ越し、2022年度からここで業務を開始しました。
- \*そして、この2年目を迎えたばかりの基幹相談支援センターからの発案で、暮らしネット・えんは埼玉県下初の独自の相談支援従事者初任者研修を埼玉県より受託、公的な補助なしにもかかわらず講師や市内事業所の協力で最初の修了者11名を送り出すことができました。小さな貢献ではありますが、慢性的な相談支援従事者不足を解消し、必要な支援を受けられる基盤を作れたことをうれしく思います。
- \*介護保険法改正作業の年度にあたり、改正作業では「史上最悪！の介護保険改定」と名付けるほどの改悪案が並びました。秋に急遽立ち上げた改悪反対のWEB集会、国会集会では、えんも国会集会の裏方を務めるなど活躍しまし



た。その甲斐あってか、おおむね「先送り」になりました。

\*年度末、急激な物価高騰を受け、職員に臨時手当を支給しました。

\*寄付は総額250万円いただきました。用途は文化事業や地域交流などに加え、介護保険など制度上の報酬を得られないけれど、見ぬふりはできない困りごと、たとえばコロナワクチン接種の申し込みや会場への付き添いなどの支援の補填とさせていただいています。最近では有償サービスにする事業者が増えています。命にかかわるワクチン接種の手配などは公的な補償があるべきです。国や新座市に働きかけもしてきましたが、なかなか認められない今、このような支援ができるのも寄付があってこそです。大切にに使わせていただいています。

\*決算は995万円マイナスとなりました。収入は若干(約800万円)増えたのですが、人件費の上昇と物価高が響きました。この年度から3つ目の職員処遇に特化した介護報酬の加算で、その分の収入は増えています。低賃金で知られた介護職の賃金アップができるのはたいへんありがたい。けれども、基本報酬が上がりませんから、昨今の経費高騰への対応や修繕の費用などは捻出できないというバランスを欠いたことになっています。基本報酬のアップを求めつつ、赤字解消という難問を23年度に引き継ぎます。

## 2023年度事業計画

\*この4月でNPOとして活動開始して20年になりました。生まれたばかりの赤ちゃんが大学生になる歳月です。最初は2事業で始まりましたが、今は利用者総数700余名、ここまでの規模になるとは考えてもいませんでした。記念行事も開催する予定ですので、決まりましたらお知らせします。

\*2023年度内にBCP(事業継続計画)策定を求められています。水害、地震、感染症等々と多岐にわたりますから、けっこうたいへんな作業になります。「作ってよかった」ものにしたいと、実行委員会で鋭意検討中です。

\*2024年度は、介護保険・医療保険・障害者支援の3報酬同時改定で、23年度中にその骨子が決まります。昨年「先送り」になった介護保険の改悪案も今年度中に結論がだされるものもあり、しっかり対応していかなばなりません。また、子育て支援が検討課題になると、高齢者の社会保障費を削って捻出と言いつつ、

これ以上介護サービスを削減すれば、ヤングケアラーや介護離職が増えるばかり。しっかりと伝え、「改悪」にストップをかけていきます。



2023年6月25日第21回定例総会





**\* 「看護小規模多機能型居宅介護あい」トータルケアの実現を目指して 報告 \***

5月に開設された「看護小規模多機能型居宅介護あい」には、暮らしネット・えんからも職員が出向している。堀ノ内病院副院長・地域医療センター長であり、えんの理事である堀越洋一先生から講演があった。その内容をお伝えしたい。

看護小規模多機能型居宅介護とは、「通い」「泊まり」「訪問看護」「訪問介護」の4つのサービスを一体的に受けられる、高度な医療が必要な人にも対応、利用者や家族の状況が変わった場合も臨機応変に組み合わせて提供、という特徴がある。

そして、看護小規模多機能型を利用するのは、以下のような方が想定される。

- ①医療を必要としている
- ②介護の必要度に比べて、家庭での介護力が十分でない
- ③人生の最終段階にさしかかっている
- ④全人的苦痛(トータルペイン)さを抱えている＝身体的苦痛、心理・精神的苦痛・社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛。

このような特徴を持つ看護小規模多機能では緩和ケアが重視される。多職種で実践する緩和ケア・アプローチには5つの原則がある。

- ①QOL重視のアプローチ:疾患の治療や治癒より生活の質を重視する
- ②全人的アプローチ:緩和ケアを必要とする個人を、医療や社会援助を必要とする「患者以上の存在」(ひとりの人)として捉える
- ③患者とその人に関わる人達(特に介護者)の両者を包含するケア
- ④患者の自律と選択を尊重するアプローチ
- ⑤率直かつ思いやりのあるコミュニケーション

医療依存度が高くて命の終わりが近づいている人のケアでは、どうしても医療的な処置が優先してしまう。だからこそ、その人の人間らしさを尊重するケアが求められている。「最期まで、可能な限り、日常に近い時間を作り出すのが介護職の役割(小島代表)」という介護の役割が重要になる。「えんからあいに出向してくるスタッフがそんなケアを目指すと、その影響は徐々にでも周囲に広がるだろうと期待されます。えんと堀ノ内病院が協力する本来的な意義はこの辺りにあると私は思っています」とまとめられた。

看護小規模多機能型介護あい、堀越先生が話されたようなケアを提供できるようになる日が一日も早く来ることを願っている。

(ケアプランえん/金貞子)



スタッフによる会場の  
フラワーアレンジメント



## ～『勤続20年』から学んだこと～

グループホームえんで介護職に就くまで

高校を出てから30代前半までは、楽譜問屋、弁当配達、巡回入浴、ビルのガラス清掃など、人生を彷徨いながらも、縁のあった仕事を転々としていました。「ホームヘルパー2級」を取得した2003年に新座市にグループホームを開設すると聞き、介護の仕事に希望を抱いていた私は迷わず面接を受け、幸いにも採用して頂きました。

グループホームでの介護職の魅力

介護の仕事は「きつい、給料が安い」などの、マイナスなイメージもついて回りますが、待遇も以前より格段に改善されつつあり、何より人と人との真っ正面から心を交わせる仕事なので、非常に学びや喜びが有る仕事だと思います。戦争を体験されたり、山あり谷あり多様な人生を歩んで来られた入居者さんのお話から学ぶことも多いです。日々一筋縄では行かない問題も発生しますが、そのつど回りのスタッフや利用者さんに助けられ、何とか続けて来れました。「介護者＝支える側」かも知れませんが、人生の先輩方の生き様や笑顔に「自分が支えて貰ってるんだな」と痛感する事も多々あります。「効率や生産性」を上げるのが目的でなく、いかに入居者さんが、安心して楽しく生活して頂けるのかを常にチームで話し合い、助け合い、サポートする仕事だと思います。

認知症の高齢者の方々が、最期まで、その人らしく過ごせる環境を

私の所属は認知症グループホームで、認知症のある方々が1ユニットで9人生活されております。洗濯、掃除、入浴、料理、外出支援などの生活に必須なサポートは勿論、御本人のペースや尊厳を大切に、最期までその人らしく生活できる環境作りを日々目指しております。また同じ建物内にデイサービスもあるので、一緒に体操やレクリエーションを行ったりしています。

介護職を考えてる方々へ

少子高齢化、不安定な世界情勢など、様々な課題を抱えてる今日の日本ですが、是非日々人間ドラマが展開される奥深い介護職に、飛び込んで来てもらいたいと思います。誰しも初めは未経験、技術や認知症対応は1つひとつ覚えていけますし、人と人との向き合う仕事なので「やりがい」や「充実感」は、とても実感できる仕事だと思います。

(グループホームえん／滝谷賢介)



## 日本社会事業大学実習生 ～えんでの介護実習を終えて～

日本社会事業大学／関根優斗



暮らしネット・えんで訪問介護実習をさせて頂き、在宅生活を継続する上で、身体介護や生活援助を必要とする方々への支援の実際を学びました。在宅は施設と違い、ケアの内容がその時の状況によって変わる場合があります。また自宅の住宅環境や介護用具に合わせ、限られた状況下で介護を行わなければいけません。そのため、訪問介護員の適切な判断能力の重要性を再認識しました。

また同行訪問では、利用者さんの身体的、精神的な状況だけではなく、介護にあたるご家族の負担や経済状況、生活習慣等、様々な要因から生じる介護上の諸課題を目の当たりにしました。その人らしい在宅生活を継続する難しさを実感するとともに、訪問介護員の皆様の対応から利用者様の意思を尊重した関わり方について学びました。特に「自分でものごとを決めることが、その人らしく生きることに繋がる」と助言をいただき、常日頃から言葉や様子を見ているからこそ、本当の利用者様の意思を引き出し、自己決定することに繋がっているのだと思いました。これまでの人生や経験を尊重し、何故その発言をしたかを考えることの大切さをご指導いただきました。

訪問介護実習を暖かく受け入れて下さった利用者様、ご家族様、職員の皆様に心より感謝申し上げます。これからも利用者さんに寄り添い、尊厳を守る対応を心がけて精進してまいります。

日本社会事業大学／深田里歩



暮らしネット・えんで実習をさせていただき、地域に住む高齢の人や障がいのある人、支援を必要としている人たちが、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援の実際を学びました。実習させていただく中で、利用者さんと職員の皆様との関係性の深さを感じております。利用者様の中には、なかなか困っていることを言えなかったり、ご本人が大変な状況を理解しきれていなかったりするケースも多いと思います。しかし、信頼できる関係性があるからこそ、困っていることを職員に言えたり、職員が利用者さんの小さな変化に気づくことができたりするのではないかと思います。訪問先の多くの利用者様は口をそろえて、「本当に良くしてもらっているのよ」、「(困っていることに)良く気付くから助かるのよ」と仰っていました。グループホームやデイホーム、小規模多機能ホームでの実習もさせていただき、そちらでも利用者さんそれぞれの過ごし方を大切にされ、一人ひとりの想いを尊重した支援の実際を学ぶことができました。身体の衰えや一人での生活等、様々な不安を抱えている利用者さんに寄り添い、ご本人だけでなくそのご家族も安心した生活を送ることができるための支援について、これからも学んでいきたいと思っております。

実習を受け入れて下さったえんの利用者さん、ご家族の皆様、ご指導いただきました職員の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。えんの皆様がとても温かく、アットホームな環境での実習をさせていただいて、とても嬉しく思います。本当にありがとうございます。





## 人の身体って面白い！

理学療法士／木村悦子

年ごとに気象状況が厳しくなっていますが、皆様お変わりありませんか？  
私は暑さバテしています…。

今年の春から、人の身体の仕組みについて職員の皆様に話す機会を得ました。  
地球に住む動物の一種“人”を、運動機能を中心にお話ししています。

運動機能は精神活動、生命維持活動を実行するのに必要不可欠です。解剖学的には面倒くさい身体ですが、機能的には簡単に言えば、とても良く連携の取れた有機体です。各人の中は勿論、地球という環境の中で上手く生き抜く為の仕組み満載です。

暑いと汗を出して体温を下げ、寒ければ筋肉を縮めて熱を出して暖めます。地上で動くために地表と接する面積の中に重心を置けるように、筋肉は身体全体でバランスを取ります。身体中を巡る血液は塩分濃度を一定に保つために水分量を腎臓などで調節します。栄養バランスの確保の為に、体脂肪を蓄えたりします。

昔の人は経験から色々な名言を残しています。健康に生きるために早寝早起き、腹八分目に医者いらず。昔の人の生活環境を考えれば、自分の体を動かさなければ家事一つ出来ないのですから、適度な運動は必須でしょう。

誰もが持っている、この優秀な身体は扱い方さえ間違えなければ百年以上動くのです。

この面白いもの、誰が作ったのでしょうか？私はいつも仕事しながら思っています。



職員に施術をする木村 PT



※今年度、全職員対象に木村 PT  
連続講座を実施しています。  
月替わりのテーマで 1 回 30 分、  
自分の身体との付き合い方も教  
わっています。





## 職員大募集！！

離職率が低いと評判の暮らしネット・えんで一緒に働いてみませんか？

「住み慣れた地域で暮らし続けたい」を支える介護サービスがそろっています。

資格取得のお手伝いもしますので、経験のない方もどうぞ。

ケアマネジャー急募、配食サービス配達、送迎運転担当者も

募集しております。

担当 小島・真中 (tel 048-480-4150)



イラスト/田島薫

### ◆ 認知症電話相談のお知らせ ◆

認知症に関する悩みごと、介護のコツや生活の工夫等々、お気軽にお電話ください。

TEL 048-480-4150

### 認知症カフェえんの森 再開！

これまでは「認知症のことを地域の方に理解していただく」ことに主眼をおいてきましたが、再開を機に、ご本人と介護家族を中心にした集いとなります。参加を希望される方は、吉村または小島までお電話ください。

### ～新型コロナウイルス対策～

5類に変更となりましたが、変わらず感染防止対策につとめてまいります。



### 地域で暮らし続けていくために 2023年度新規・継続会員募集中！

正会員：1000円 賛助会員：3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

郵便振替(00180-5-314344)



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ:https://npoenn.com/